



# 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場取引所 東大

上場会社名 ユニチカ株式会社  
 コード番号 3103 URL <http://www.unitika.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安江 健治  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 石川 省二

TEL 06-6281-5721

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	132,595	△1.0	7,265	17.2	3,898	19.7	2,279	396.0
22年3月期第3四半期	133,951	△15.0	6,198	36.8	3,255	107.4	459	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	4.79	—
22年3月期第3四半期	0.97	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	276,432	25,792	8.0	46.56
22年3月期	277,196	23,519	7.2	41.70

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 22,134百万円 22年3月期 19,823百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	190,000	4.3	11,500	34.6	7,000	56.4	6,000	97.6	12.62

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、[添付資料] 3ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 475,969,000株 22年3月期 475,969,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 560,273株 22年3月期 546,728株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 475,418,244株 22年3月期3Q 475,530,620株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期（平成22年4月1日～平成22年12月31日）は、中国を中心とする新興国需要が世界経済の回復を牽引する一方で、国内では、円高、デフレの定着に加え景気刺激策の縮小などにより、先行き不透明な状況で推移しました。こうした中、当第3四半期につきましては、売上高は132,595百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は7,265百万円（同17.2%増）、経常利益は3,898百万円（同19.7%増）、四半期純利益は2,279百万円（同396.0%増）となり、構造改善部門における事業運営見直しと販売面の回復を背景として、収益は改善基調となりました。事業別の概況は次の通りです。

#### 【高分子事業】

フィルム事業では、包装フィルムは市況の回復により好転し、電子部品などの好調な需要により順調であった工業フィルムはやや伸びが鈍化しましたが、全体的には堅調に推移しました。樹脂事業では、自動車・電気電子分野の一部の素材・用途で伸び悩みがありましたが、全体的には堅調に推移しました。不織布事業では、スパンボンドは自動車関連も含め比較的堅調に推移し、綿スパンレースは化粧雑貨用途が好調を維持したことから引き続き伸長しました。また、バイオマスプラスチック「テラマック」は、フィルム、樹脂、不織布及び繊維の各分野について積極的に展開し、概ね堅調に推移しました。

#### 【機能材事業】

ガラス繊維事業では、新規物件が少ない建築・土木用途や自動車用途は伸び悩みましたが、環境用途は堅調に推移しました。ICクロス事業は、海外市場向けは堅調でしたが、国内は市況回復の遅れにより低迷が続き、収益は落ち込みました。活性炭繊維では、廃液処理用途や自動車のVOC除去シートが引き続き堅調に推移しました。ガラスビーズは、工業用途は低調でしたが、道路用途と反射材用途が堅調に推移しました。

#### 【繊維事業】

産業繊維事業では、ビニロンは、欧州市場での販売が低迷しているため、新興国市場での用途展開を進め販売数量は増加しましたが、販売価格の競合や為替影響などにより、採算面で苦戦しました。ポリエステルは、高強力糸が建築・土木用途で、短繊維が不織布用途でそれぞれ堅調に推移しました。衣料繊維事業では、ユニフォームが流通在庫減少を背景にワーキング分野を中心として改善し、インナー・スポーツ用途の機能素材や婦人衣料も、市況回復などにより、採算改善が進みました。

#### 【その他】

その他の事業について、環境事業では、厳しい受注状況が続いており官公需分野が低迷する中、環境プラント関連はコスト削減の更なる徹底などにより採算が改善しましたが、環境調査・分析関連は価格競合の影響などにより低迷しました。メディカル事業では、循環系カテーテルのシェアアップ、新規商品の販売伸長がみられ、酵素・診断薬の販売も堅調に推移しました。生活健康事業では、セラミド、アラビノースなどの食品機能素材が堅調に推移しました。一方、不動産関連事業では、マンション販売の新築物件竣工時期の差異などにより減収となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前期末に比べ764百万円減少し、276,432百万円となりました。これは、主として売上債権が増加したものの、現金及び預金、有形固定資産等が減少したことによります。負債は、前期末に比べ3,036百万円減少し、250,640百万円となりました。これは、主として借入金が増加したことによります。純資産は、前期末に比べ2,272百万円増加し、25,792百万円となりました。これは、主として利益剰余金が増加したことによります。

また、キャッシュ・フローの状況については次のとおりです。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加がありましたが、税金等調整前四半期純利益に減価償却費を加えたキャッシュ・イン・フロー等により、758百万円の資金の増加（前年同期比6,078百万円減）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴い3,039百万円を支出したことなどにより、2,441百万円の資金の減少（前年同期は2,320百万円の資金の減少）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の削減により、3,520百万円の資金の減少（前年同期は6,820百万円の資金の増加）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ5,359百万円減少し、14,801百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績は、概ね当初の計画通り推移しました。従いまして、平成22年5月14日に公表しました通期の連結業績予想の修正はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

一部の連結子会社では法人税等の納付税額の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限っております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理の原則・手続の変更)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は9百万円、経常利益は13百万円、税金等調整前四半期純利益は164百万円減少しております。

(表示方法の変更)

連結キャッシュ・フロー計算書関係

営業活動によるキャッシュ・フローの「投資有価証券売却損益(△は益)」は、当第3四半期連結累計期間において、金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めております。なお、当第3四半期連結累計期間の「その他」に含まれている「投資有価証券売却損益(△は益)」は1百万円であります。

また、財務活動によるキャッシュ・フローの「配当金の支払額」は、当第3四半期連結累計期間において、金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めております。なお、当第3四半期連結累計期間の「その他」に含まれている「配当金の支払額」は△0百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,004	20,199
受取手形及び売掛金	48,175	39,361
商品及び製品	27,005	28,262
仕掛品	16,449	16,676
原材料及び貯蔵品	4,313	3,920
その他	4,556	5,336
貸倒引当金	△223	△175
流動資産合計	115,281	113,581
固定資産		
有形固定資産		
土地	104,570	104,452
その他(純額)	47,830	50,280
有形固定資産合計	152,400	154,732
無形固定資産		
のれん	25	90
その他	630	630
無形固定資産合計	655	720
投資その他の資産		
その他	8,746	8,741
貸倒引当金	△651	△579
投資その他の資産合計	8,094	8,161
固定資産合計	161,151	163,615
資産合計	276,432	277,196

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,886	24,971
短期借入金	71,939	77,668
1年内返済予定の長期借入金	37,426	31,436
1年内償還予定の社債	200	400
未払法人税等	425	322
賞与引当金	638	1,085
工事損失引当金	16	1
完成工事補償引当金	23	29
事業構造改善引当金	711	1,118
その他	11,467	11,597
流動負債合計	148,735	148,631
固定負債		
長期借入金	80,323	83,875
退職給付引当金	5,475	4,318
役員退職慰労引当金	71	170
その他	16,033	16,681
固定負債合計	101,904	105,045
負債合計	250,640	253,676
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,798	23,798
資本剰余金	1,661	1,661
利益剰余金	△2,108	△4,734
自己株式	△55	△54
株主資本合計	23,295	20,670
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△159	△429
繰延ヘッジ損益	△6	3
土地再評価差額金	2,452	2,799
為替換算調整勘定	△3,447	△3,219
評価・換算差額等合計	△1,160	△846
少数株主持分	3,657	3,695
純資産合計	25,792	23,519
負債純資産合計	276,432	277,196

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	133,951	132,595
売上原価	108,614	107,156
売上総利益	25,337	25,438
販売費及び一般管理費	19,138	18,172
営業利益	6,198	7,265
営業外収益		
受取利息	138	141
受取配当金	99	99
投資有価証券売却益	184	—
持分法による投資利益	30	41
その他	1,206	760
営業外収益合計	1,659	1,043
営業外費用		
支払利息	2,756	2,695
出向者人件費	912	868
その他	933	847
営業外費用合計	4,602	4,411
経常利益	3,255	3,898
特別利益		
固定資産売却益	17	293
収用補償金	108	—
特別利益合計	126	293
特別損失		
固定資産処分損	733	349
投資有価証券評価損	204	677
事業構造改善費用	498	242
その他	1,263	716
特別損失合計	2,700	1,986
税金等調整前四半期純利益	680	2,205
法人税、住民税及び事業税	333	433
法人税等調整額	△129	△535
法人税等合計	203	△101
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,307
少数株主利益	17	28
四半期純利益	459	2,279

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	680	2,205
減価償却費	5,017	4,662
貸倒引当金の増減額(△は減少)	273	151
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	△2,001	△407
支払利息	2,756	2,695
投資有価証券売却損益(△は益)	△184	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,348	△8,921
たな卸資産の増減額(△は増加)	8,223	1,000
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,955	1,022
その他	△673	693
小計	9,789	3,101
利息及び配当金の受取額	253	492
利息の支払額	△2,524	△2,480
法人税等の支払額	△680	△355
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,837	758
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	10	△165
投資有価証券の取得による支出	△23	△15
投資有価証券の売却による収入	368	18
有形固定資産の取得による支出	△2,877	△3,039
有形固定資産の売却による収入	268	851
その他	△67	△91
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,320	△2,441
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2,626	△5,518
長期借入れによる収入	31,960	23,749
長期借入金の返済による支出	△22,070	△21,223
社債の償還による支出	△200	△200
配当金の支払額	△2	—
その他	△240	△328
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,820	△3,520
現金及び現金同等物に係る換算差額	383	△156
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	11,719	△5,359
現金及び現金同等物の期首残高	9,275	20,160
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,995	14,801

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	高分子事業 (百万円)	環境・機能 材事業 (百万円)	繊維事業 (百万円)	生活健康・ その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売 上高	44,044	17,261	57,736	14,908	133,951	—	133,951
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,606	52	243	1,952	3,853	(3,853)	—
計	45,650	17,313	57,979	16,860	137,804	(3,853)	133,951
営業利益又は営業損失 (△)	6,360	926	△834	1,433	7,885	(1,686)	6,198

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

I 海外売上高（百万円）	16,381
II 連結売上高（百万円）	133,951
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.2

（注） 売上高（内部売上高及び振替高を除く）が連結売上高の10%以上であるセグメントはありません。

[セグメント情報]

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	高分子 事業	機能材 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	49,661	11,216	56,796	117,674	14,921	132,595	—	132,595
セグメント間の内部売上 高又は振替高	24	15	135	174	1,502	1,677	△1,677	—
計	49,685	11,231	56,931	117,848	16,423	134,272	△1,677	132,595
セグメント利益	7,425	1,186	357	8,968	222	9,191	△1,925	7,265

- (注) 1. その他には、環境事業、メディカル事業、生活健康事業、不動産関連事業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益の調整額△1,925百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。  
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
 該当事項はありません。